

EMT981 再生系の再構成(24)

—ハイドンを聴く(15)—

1. はじめに

前報(3)において EMT981 から TruPhase を経て 300B アンプまでのバランス伝送が実現した機会に、手持ちの CD を聴き直していくことにしました。今回も、しばらく聴いていないハイドンの作品を聴いていきます。

2. EMT981 の試聴方法

EMT981 の再生では、前報(7)と同様に前報(2)の再生ルートとします。

EMT981(*)→TruPhase→.300B

* : GPS-777 より CCD-6 経由でクロック入力

古い録音で定位などに違和感が感じられるときは TruPhase で位相を反転します。

再生する CD はハイドンの交響曲です。

PONY CANYON PCCL-00442

ハイドン 交響曲第 100 番<軍隊>

交響曲第 101 番<時計>

ヤン・ヴィレム・デフィリエント指揮

コンバッティメント・コンソート・アムステルダム

EMI TOCB-13122

ハイドン 交響曲第 100 番<軍隊>

交響曲第 101 番<時計>

オッター・クレンペラー指揮フィルハーモニア

3. EMT981 の試聴結果

デフィリエント指揮コンバッティメント・コンソート・アムステルダム盤は、1996年の録音で、古楽器のアンサンブルによる演奏のようです。アムステルダムの教会での録音ですが、残響音は少なく、直接音がリアルに捉えられています。演奏スタイルはいかにも古楽器のアンサンブルのようで、通常のオーケストラとは違った雰囲気が出ています。

クレンペラー指揮フィルハーモニア盤は、前報(22)の EMI TOCE-13121 盤と同様、1964年の録音で、音質は緻密さにかけますが、クレンペラーの指揮らしく、勢いのある演奏です。録音が古いということから TruPhase で位相反転させますと、定位が向上します。

4. まとめ

クロック入力した EMT981 からのバランス接続の効果で、演奏スタイルの異なった演奏が楽しめます。

以上